

卒後藤谷塾 議事録

開催日時：平成 30 年 7 月 11 日（水）7：00～8：05 場所：テレビ会議

I 活動報告

1. A

病棟配属で看護業務を中心にしている。気切チューブの交換や PICC の挿入は 1 件ずつ程度行っている。今月中に今後の研修日程などを調整するために話し合いをする予定。

2. B

現在、看護師として青森の地域複合施設である六ヶ所村医療センターに出向中。

3. C

7～9 月は内科配属予定であったが整形外科の要望で延長している。60 人以上みている。主に病棟管理をしている。病棟にいるので看護師からは声をかけやすいと言われる。システマ的には困っている事はない。

藤谷医師：医師不足の診療科に求められる事は特定ケア看護師の目的と一致。

4. D

内科で 5 名ほど担当している。在宅を始めている。6 月から開始しており、1 週間に 1 名程度。細かなルールが決められてないまま始めているため、迷うことも多い。現在は医師とともに診療にいつている。オンコールでのバックアップ体制をとっている。

5. E

脳神経センターで勤務しており、30～35 名ほどの脳外科患者のうち半分程度の患者を担当している。自主的にどんどん介入していつている。病棟看護師から相談される事が多い。他科の患者の相談もある。特定行為としては気切チューブの交換が多い。気切チューブ抜去に取り組んでいる。内科的なことのフィードバックは ICU 医師や内科医師に相談している。

6. F

今月から ICU にて研修を行っている。特定行為としては呼吸器の設定変更や降圧剤の調整が多い。ICU では集中治療医のフィードバックがすぐにもらえる。看護師の指導もいつている。研修終了後の配属は未定。臨床研修の診療科に関しては看護部で決定している。以前より研修したい診療科を伝えているが、なかなか公的には話し合えていつている。

7. G

ICU で研修継続中。午後はラウンドを行っている。MET と連携をとる症例があった。

総合内科の知識が不足している。8月から循環器科で研修を行う予定。

8. H

看護師不足があり、日勤帯でも看護業務を行っている。気切チューブ交換を行っている。医師が増えて、知識について教えてもらえるチャンスが増えた。

9. I

自施設では院長の患者担当+新人のフォローを行っていた。現在は与那国島の診療所で働いている。診療のサポート等を主に行っている。診療所の雰囲気はとても良く、役立っていると感じている。とても良い経験ができており、また来たいと思っている。

10. J

先月に引き続き、救急外来で研修中。救急車での来院と外来の診療をしながら血管確保や薬剤投与を行っている。

11. K

整形外科配属。6~7名をみている。主に病棟管理を担っている。病棟看護師から相談もある。手技的なことの病院としての決め事はまだ決まっていない。指導医との話し合いをする予定。

II 症例報告

1. 症例：高血圧緊急症

2. 藤谷医師からのコメント

- ・検査を行うときは目的を明確にして行う
- ・緊急対応が必要な症例だと意識しておくこと
- ・検査所見、身体診察で少しの異常を見逃さないことが大切